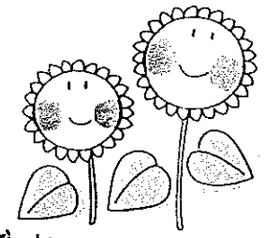
働こう障害者も　働けるんだオレたちも
こぶしだより
1994年8月31日(水)
—発行—第171号
こぶし作業所
宇都宮市柳田町1401
☎0286(62)1911

感動体験！ブナの森

夏の盛りの7月29～31日、福祉保育労働組合こぶし分会では、住谷所長を混じえて、わらび座（秋田県）へ観劇とブナの巨木に出会うために出かけました。おりしもわらび座は、今年の家族旅行の予定地。ひと足早くわらび座を体験するぞ！と意気込んで行きました。

何故か男性ばかり5人（失礼！小学生とはいえ、2人の女性もいました。）と、むさくるしい？一行でした。



感動体験 その1

30日早朝秋田着。まずは空腹を満たすため、一路男鹿半島へ。夜を徹して走ったペコペコのお腹に、新鮮なウニのたっぷりのった"ウニ丼"と、気持ちの良い草原、青い海。ウニのおいしさはともかく、絶景に大感激した一行でした。

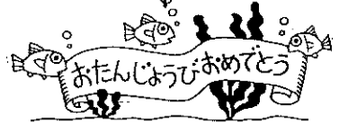
（感動体験 その2は次号にて）

〈荒井〉

〜けやき編

けやき作業所の長老、いや、けやき・こぶしの仲間・職員をあわせても一番の年配者である斉藤健さんが還暦を迎えました。

そこで、けやき作業所では過日、8月28日(日)に「斉藤健さんの還暦を祝う会」を行いました。食べきれない位のお菓子にくだもの、ケーキにジュースと、みんなも大満足！爆竹もけたたましく鳴り響き、ヤンヤヤンヤで盛り上がっていました。



おたんじょうびおめでとう

親亡き後、兄弟と共に生活し、通所の作業所で還暦を祝える健さんは、本当に幸せだと思います。

他の仲間も、健さんのようにこぶしやけやきで還暦のお祝いが出来るといいですね。

〈追記1〉

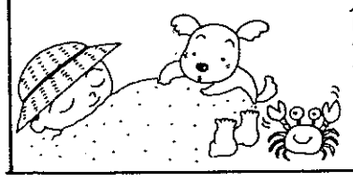
—けやき自治会々長
祝いの言葉—

「けやき作業所は定年がないので、いつまでも元気でけやき作業所に通ってきて下さい。」

〈追記2〉

斉藤さんから、仲間・職員、一人ひとりに大きな紅白まんじゅうをいただきました。とってもおいしかったです。ごちそうさまでした。

〈成田〉



働こう障害者も　働けるんだオレたちも

'94キャンプ in 銀山平

〈けやき編〉

7月15、16日、思い出深い足尾町銀山平キャンプ場にてけやきのキャンプは行われました。

日程は、一日目に前日光牧場で昼食をとった後キャンプ場へ行き、夕食・キャンプファイヤー。二日目は朝食後キャンプ場を出発し、日光（戦場ヶ原）でハイキングをして帰るというものでした。けやきの行事らしく勿論天気は晴れ。素晴らしいキャンプとなりました。

年度当初、昨年の経験からメンバーの力量も考え、今年のキャンプは仲間だけで出来るだろうと職員は判断し、自主性や協調性を持たせ、仲間集団づくりという点でも重要な取り組みをしようと考えました。自治会の役員たちも「よし、やってやる！」と張り切り、職員は一切口を出さない、仲間たちが主人公のキャンプをしよう、と決めました。しかし梅雨に入っても仲間はキャンプの話を持ち出さず、職員が動くのを待っているようでした。そのうち「今年はキャンプ出来ねえ。」と愚痴をこぼす仲間も出てきましたが、言ったことに責任を持ってもらおうと、職員は何もしませんでした。

キャンプまで一ヶ月を切ろうとしたある日、「足尾のキャンプ場大丈夫かなあ？」と、自治会役員が職員に相談してきました。待っていました！それからは威勢の良さが戻り、トントン拍子に話が進みました。

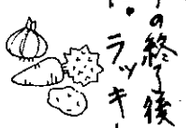
そして当日——。仲間たちは一生懸命カレーとサラダと御飯を作りました。本当に真剣に作っていました。保護者の方々にも事前に今回のキャンプの主旨を説明し、理解してもらったため、たまりかねて手を貸そうとしたお母さんを他のお母さんが止めて、最後まで仲間のみの力で作ることが出来ました。「おいしいね。」「大したもんだねえ。」とお母さん達は仲間だけで作った夕食を誉めちぎりながら食べ、それを聞いた仲間たちは"自分達だけで出来るんだ"という自信を持つことが出来ました。

二日目のハイキングは約6kmの距離を歩きました。ダメだったら途中で引き返そうということで出掛けたS君とKさんも完歩し、その頑張る姿がお母さん達の胸を打ち、とても良いハイキングでした。

このキャンプで仲間は自信をつけ、お母さん方は仲間の新たな一面に感動し、職員もまた、やり遂げた充実感を味わえました。スケジュールもバッチリで、内容の濃いキャンプでした。

P.S.

恒例の雨は夕食時パラパラと、ハイキングの終了後でした。ラッキー！



〈金田〉

第　号受付

〔こぶし編〕

あーした天気になーあれ！今年こそ降るような星空の下でキャンプを体験したい。祈るような気持ちでキャンプの日を迎えました。

7月22日、空は晴れ渡り、絶好のキャンプ日和となりました。目的地は足尾町銀山平公園キャンプ場。晴天とはいえ、数年前の集中豪雨をつい思い出してしまっていると、追い打ちをかけるように「足尾のあの辺りは雷雲の発生する所で…」と、気が重くなるような情報が耳に入ってきました。とはいえ〝出かけてしまったものは仕方がない〟と開き直り。山あいの爽やかな風に吹かれました。

現地には予定よりちょっと早めに倒着。昼食・入村式の後、食事当番組・散策組に分かれて活動開始です。

食事当番組の中には、包丁を持つのも初めてという仲間もいましたが、米とぎ・野菜洗いから出来上がりまで、全ての場面で仲間が参加できました。出来上がったカレーライスとサラダは絶品！普段はあまり食べない仲間もおかわりをする程でした。

一方、散策組は足尾で一番高い山を目指し、車で出かけましたが、あいにく登り始めてすぐに車両進入禁止。仕方なく林道を走り、足尾ダムを見学してきました。（実はこの林道、役場としては通行を禁止しているところだったようです。）

陽も暮れかかった頃からいよいよメイン企画、キャンプファイヤーです。担当は、自治会レクリエーション部。事前から何度も話し合いを重ね、周倒な準備をしていましたが、一生懸命な時に限り〝いたずら天使〟が動き出すもので、フォークダンスのテープが突如ラジオ体操になってしまうアクシデントもありましたが、それもまた楽し！のキャンプファイヤーでした。

二日目はハイキングとバーベキューの予定でしたが、キャンプ二日前に台風がこちらに向かうとの情報。〝やはり、こぶしのキャンプは何かある〟と素直にそれを信じ、キャンプ前日に予定を変更して、帰路途中の公園で昼食ということにしました。ところが台風はそれるし、食事予定の公園には日陰がなく、こぶし直帰となりました。

今回のキャンプは、仲間16名・家族8名とちょっと寂しいものでしたが、仲間たちにとってはゆったりとした時間の中でのんびり過ごせ、楽しいキャンプになりました。また、今までにはほとんど経験がない雨なしのキャンプ。布団付きのきれいなバンガローへログハウス・ロッジを体験し、参加したお母さん方からも「ここだったら、また来年も来たい！」との声も聞かれました。

〈荒井〉

えた3年生。初めての人もいれば、1年生の時から毎年欠かさず参加している生徒さんもいて、仲間たちの名前を呼んで話しかけてくれる微笑ましい光景も見られました。

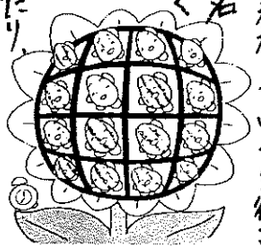
昼食時の飲み物やお弁当のおかずを失敬したり、作業中パニックを起こす仲間もいたりして、今までにない体験をしたようでしたが、〝貴重な体験ができ、いい勉強になりました〟〝単調な作業を飽きずにやっていて偉いと思いました〟等の感想を寄せてくれました。

仲間たちも交流会後、名残り惜しそうにいつまでも手を振っていました。

P.S.

交流会でのピアノの調べもステキでした。

〈鈴木〉



エッセイ

〝アルミ缶の輪〟

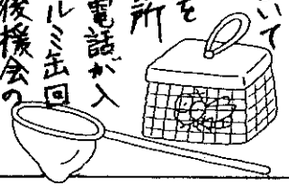
この頃、けやき作業所にアルミ缶を届けてくれる人がとても増えました。「近所の方から聞いて…」とか「どうせ捨てる物だから少しでも役に立てば…」などと言って、多くの人がけやきの玄関にアルミ缶の入った袋を置いて行ってくれます。時には、遠い町の方から「アルミ缶を届けたいので、けやき作業所の場所を教えて下さい。」と電話が入ることもあり、けやきのアルミ缶回収は、保護者や近所の方、後援会の方等の口コミで方々へ広がっています。

アルミ缶が多く集まることは勿論、とても嬉しいことですが、それ以上に、アルミ缶回収をきっかけにして、多くの人にけやき作業所の存在を知ってもらえていることを、何よりも心強く感じています。

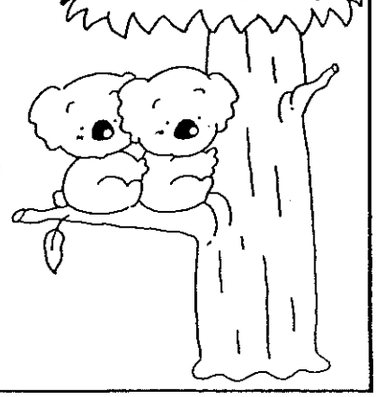
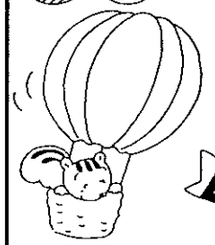
アルミ缶の単価は2円から1円になってしまいました。しかし、毎日頑張って働いている仲間たちのことを1人でも多くの人に知ってもらえるのなら、そのことを、回収を続けていく元気の源として頑張っていかなければ……と思っています。

リサイクル運動の発展と共に、作業所や仲間たちが、広く地域に貢献できればいいなあと思うようになった今日この頃です。

〈塩入〉



9がつのこよみ

3日(土)	指導会議
4日(日)	休所日
10日(土)	親子食事会
11日(日)	休所日
15日(木)	休所日
17日(土)	職員会議
18日(日)	休所日
23日(金)	休所日
24日(土)	休所日
25日(日)	日曜作業所

※5日(月)
バザー実行委員会（こぶし）